

丸文、AI コミュニケーションロボット Kebbi Air の教育市場への本格展開を始動 ～体験会で満足度 100%を達成、1 台を多人数で共有できる運用効率を実証～

エレクトロニクス商社の丸文株式会社（代表取締役社長 兼 CEO / COO：堀越裕史、本社：東京都中央区、以下、丸文）は、教育市場への本格参入を見据え、八王子市を拠点とするプログラミング教室 テラコミ（運営：株式会社 FreeStyle）で、AI コミュニケーションロボット Kebbi Air を活用したプログラミング体験会を実施しました。本体験会は、教育市場参入にあたっての第一歩として位置づけられ、わずか 1 時間の実施にも関わらず、参加した生徒および保護者から満足度 100%の評価をいただきました。

【実施の背景】

小学校におけるプログラミング教育の必修化以降、子どもたちの論理的思考力や創造性を育む教育ツールへの需要が高まっています。特にロボット教材は、具体的なモノを動かすという点で子どもたちの学習への興味・関心の向上を引き出すことができる反面、多人数での効率的な授業運営や、教材を最大限に活用し続けるための運用面での工夫が求められていました。

そこで、今回は生成 AI を活用した会話能力と高いカスタマイズ性が特長の Kebbi Air を用いて、地域密着型のプログラミング教室 テラコミ様の協力のもと、実証および体験会を行いました。

【プログラミング体験会の内容：社会課題解決型学習】

プログラミング体験会では、実社会での活用を意識した「社会課題解決」をテーマに設定し、ビジュアルプログラミングツール Roflow（ローフロー）を使用して学習を行いました。

1. ロボットとの対話（アイスブレイク）

Kebbi Air とのふれあい（頭や体を撫でる、ダンスを見る）を通じたロボットへの親近感の醸成。

2. プログラミングの基礎

「顔を触ったら挨拶」「お腹を触ったら進む」など、トリガー（きっかけ）とアクション（動作）の基礎を習得。

3. 応用課題（社会課題解決）

「レストランの店員さんになろう」をテーマに、挨拶から注文受付までの実践的なプログラム作成。



プログラミング体験会の様子

【実施後の成果・評価】

評価項目	結果・詳細
参加者満足度	達成感と自立性の向上 お子様・保護者様ともに 100% の高評価。子どもたちが自らの手で試行錯誤し、意図通りにロボットが動いた瞬間の達成感が満足度の源泉に。講師に頼りきりになるのではなく、楽しみながら自立的に学ぶ姿勢が強く見られました。
運用効率	限られた機材での効率的なグループ学習 1 台のロボットを 5～6 名の生徒で共有可能であることを確認。Kebbi Air は複数の PC からの接続・プログラム送信をスムーズに受け付けることができるため、1 人 1 台のロボットを用意しなくても、グループ内で交代しながらストレスなく学習を進めることが可能です。これにより、生徒数に対する機材の必要数を抑え、効率的な授業運営を実現できる可能性を確認できました。
教育的効果	強い成功体験と実用性の理解 画面の中だけでなく、目の前のロボットが自分の指示通りに動くという物理的なフィードバックが強い成功体験を与え、自己効力感を向上。また、社会課題解決のテーマを通じ、AI 技術を活用したロボットの実社会での活用イメージを具体的に持つことができました。

●プログラム体験会の詳細：<https://www.marubun.co.jp/products/73855/>

【今後の取り組みについて】

今回のプログラム体験会を通じて、Kebbi Air が教育現場の課題を解決し、高い教育効果を両立できる次世代の教材となる可能性を確認できました。当社は先端技術を発掘・提供するだけでなく、それらを使いこなす次世代の育成も企業の重要な使命であると考えています。今後は本実証・体験会で得られた知見を活かし、教育機関やプログラミングスクール等への導入支援を本格化させるとともに、子どもたちが先端技術に触れ、論理的思考や創造力・表現力を育める環境づくりを推進してまいります。

【テラコミ 教育事業部長様のコメント】

プログラミングスクールとして、生徒一人に一台のロボット導入はコスト面から躊躇しておりました。しかし今回の体験会を通じて、Kebbi Air であれば 1 台で 5～6 名の生徒にレッスンが可能であると分かりました。他のロボット教材ではここまでスムーズに複数台 PC からデータ送信ができるものはなく、小中高の情報授業など、教育現場での活用が十分に期待できると実感しました。今後の教育業界で Kebbi Air が AI ロボット教材として活躍する姿が目に見えます。

【丸文 担当者のコメント】

今回の体験会で何よりも印象的だったのは、子どもたちが自立してどんどんプログラムを組み、試行錯誤を楽しんでいる姿でした。「自分が作ったプログラムで、目の前のロボットが実際に動く」という物理的なフィードバックが達成感につながり、強いモチベーションになっていました。今後は、高齢者支援や接客といった「社会課題解決」のテーマにも継続的に挑戦してもらい、子どもたちの無限の可能性を引き出すお手伝いができればと考えています。

【プログラミング教室「テラコミ」について】

八王子市を拠点とする地域密着型のプログラミング教室です。小学生～中学生を対象に、「楽しく学ぶ」をモットーとして、PCスキルやプログラミング思考を養い、子どもたちの創造性を育む教育を実践されています。



- プログラミング教室「テラコミ」：<https://tera-comm.jp/>

【AI コミュニケーションロボット Kebbi Air について】

当社は 2024 年 3 月に、台湾の NUWA Robotics Corp.と資本提携を行い、NUWA ロボティクス JAPAN 株式会社と販売代理店契約を締結しました。以来、同社の AI コミュニケーションロボット「Kebbi Air」と関連ツールの取り扱いを開始しております。

「Kebbi Air」は、生成 AI を活用した AI コミュニケーションロボットです。会話だけでなく、豊富なボディランゲージやダンス、カスタマイズ性の高いプログラミング機能が特徴です。教育現場においては、ビジュアルプログラミングによる直感的な学習に加え、AI 教育・英語教育などにも対応可能です。

- Kebbi Air 詳細はこちら：<https://www.marubun.co.jp/products/68860/>

<丸文株式会社について>

本 社：東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1
設 立：1947 年
代 表 者：代表取締役社長 兼 最高経営責任者（CEO）、最高執行責任者（COO）堀越裕史
従 業 員：1,179 名（連結：2025 年 3 月 31 日現在）
資 本 金：62 億 1,450 万円
売 上 高：2,108 億円（2024 年度連結）
事業内容：半導体や電子部品、システム機器などの国内外の先端エレクトロニクス製品を販売する商社。
東京証券取引所プライム市場に上場。（コード：7537）
U R L：www.marubun.co.jp

NUWA ロボティクス社製品に関するお問い合わせ先
丸文株式会社 ディオネカンパニー 担当：西井
TEL：03-3639-9650 FAX：03-5643-0354
E-mail：dione_mkt@marubun.co.jp

このニュースリリースに関するお問い合わせ先
丸文株式会社 経営企画部 担当：酒井・熊谷
TEL：03-3639-3010 FAX：03-5644-7693
E-mail：koho@marubun.co.jp